



## 海洋資源・産業ラウンドテーブル

### 平成30年度理事会・総会・全体会合及び懇親会

#### (全体概要)

■日時：平成30年7月6日(金) 15:00～19:00

■場所：霞山会館・霞山の間及び牡丹の間（霞が関コモンゲート西館37階）

#### ○平成30年度第1回通常理事会（於：霞山の間）（15:00開始）

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 議長選出／同挨拶
4. 理事会成立の確認
5. 議事録署名人の選任
6. 議事
7. 閉会

#### ○平成30年度第1回通常総会

1. 開会
2. 総会成立の確認
3. 議事録署名人の選任
4. 議事

<第1回通常総会一時中断・第2回通常理事会に移行>

#### ○平成30年度第2回通常理事会

1. 開会
2. 議事
3. 議事録署名人の選任
4. 閉会

<第1回通常総会再開>

5. 閉会（16:00）

※上記の平成30年度理事会・総会は連続開催し、総会における議案説明等を簡略化いたします。

---

#### ○第19回全体会合（於：霞山の間）（16:15～17:15）

「海底熱水鉱床の音波探査技術について」

・・・株式会社地球科学総合研究所 研究開発部長 浅川栄一氏

「自律歩行型海底採掘及びサンプリングシステムのスケールモデル試験について」

・・・東海大学 海洋学部客員教授 渡辺喜保氏

「海洋鉱物資源開発基礎講座の概要および開催結果について」

・・・一般財団法人 国際資源開発研修センター事務局 事務局長 神門正雄氏

#### ○懇親会（於：牡丹の間）（17:30～19:00）

- －挨拶 主催者代表
- 来賓
- －乾杯
- －歓談
- －中締め

以上

「海洋資源・産業ラウンドテーブル」

平成30年度  
第1回通常理事会

< 次 第 >

1. 開 会
2. 出席者紹介
3. 議長選出／同挨拶
4. 理事会成立の確認
5. 議事録署名人の選任
6. 議 事
  - (1) 議案1号：平成29年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件
  - (2) 議案2号：平成30年度事業計画および収支予算案の承認に関する件
  - (3) 議案3号：役員を選任に関する件
  - (4) 議案4号：新規入会会員の承認に関する件
  - (5) その他
7. 閉 会

=====  
〔第1回理事会配布資料〕

- 議案1号：平成29年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件  
議案2号：平成30年度事業計画および収支予算案の承認に関する件  
議案3号：役員を選任に関する件  
議案4号：新規入会会員の承認に関する件

参考資料1：役員・幹事名簿／会員状況

「海洋資源・産業ラウンドテーブル」

平成30年度  
第1回通常総会

< 次 第 >

1. 開 会
2. 総会成立の確認
3. 議事録署名人の選任
4. 議 事
  - (1) 議案1号：平成29年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件
  - (2) 議案2号：平成30年度事業計画および収支予算案の承認に関する件
  - (3) 議案3号：役員承認に関する件
  - (4) 議案4号：新規入会会員の承認に関する件
  - (5) その他
5. 閉 会

=====

[第1回通常総会配布資料]

- 議案1号：平成29年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件  
議案2号：平成30年度事業計画および収支予算案の承認に関する件  
議案3号：役員承認に関する件  
議案4号：新規入会会員の承認に関する件

参考資料1：役員・幹事名簿／会員状況

海洋資源・産業ラウンドテーブル  
平成30年度第1回通常理事会／通常総会

議案1号：平成29年度事業報告および決算報告  
ならびに監査報告に関する件

**I. 事業報告**

**1. 会議の開催**

(1) 総会・理事会・懇親会

年 月 日	内 容
2017年7月7日(金) (15:30～16:00) (於：霞が関コモンゲート西館 37階 霞山会館(霞山の間及び牡丹の間))	第1回通常理事会 議題：1. 議案1号：平成28年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件 2. 議案2号：平成29年度事業計画および収支予算案の承認に関する件 3. 議案3号：理事の交代に関する件 4. 議案4号：新規入会会員の承認に関する件 5. 議案5号：個人会員に係る会則及び会員規定の改定に関する件 6. その他  第1回通常総会 議題：1. 議案1号：平成28年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件 2. 議案2号：平成29年度事業計画および収支予算案の承認に関する件 3. 議案3号：理事の交代に関する件 4. 議案4号：新規入会会員の承認に関する件 5. 議案5号：個人会員に係る会則及び会員規定の改定に関する件 6. その他  懇親会 理事会・総会および全体会合終了後に恒例の懇親会を開催

(2) 幹事会

年 月 日	内 容
2017年5月30日(火) (16:00～17:30) (於：(一社)海洋産業研究会)	第1回幹事会 議題：1. 平成29年度第1回通常理事会／通常総会、全体会合、懇親会について (1)平成29年度第1回通常理事会／通常総会、懇親会の全体概要

年 月 日	内 容
	(2)平成 29 年度第 1 回通常理事会／通常総会の議案 (案) 2. 平成 29 年度の年間活動の検討 (1)個人会員の有料化について (2)10 周年記念事業について (3)その他 3. その他
2017年10月18日(水) (10:00～12:00) (於：同前)	第 2 回幹事会 議題： 1. 前回幹事会及び平成 29 年度理事会・総会等のご報告 2. アンケート結果の報告 3. 平成 29 年度の活動について (1)ラウンドテーブル全体会合／特別講演会 (2)見学会 (3)調査・研究事業 (4)10 周年記念事業 (5)その他
2017年12月15日(金) (メール審議)	第 3 回幹事会 議題： 1. 第 18 回全体会合の開催について
2018年4月19日(金) 予定 (メール審議)	第 4 回幹事会 議題： 1. ノルウェーと情報交換会開催について 2. JMEC との海底鉱物資源開発基礎講座の共催について

## 2. 全体会合等の開催

### (1) 全体会合

年 月 日	内 容
2017年7月7日(金) (16:00～17:15) (於：霞が関コモンゲート西館 37 階 霞山会館・霞山の間)	第 17 回海洋資源・産業ラウンドテーブル全体会合 (理事会・総会終了後に開催。)  内容：以下のとおり 1) 「国際会議に見る深海底鉱物資源開発の動向：Underwater Mining Conference (韓国), Deep Sea Mining Summit (シンガポール) 参加報告」 ・・・・東海大学海洋学部客員教授 渡辺喜保氏 2) 「ISA における環境規則の策定動向：UBA/BGR/ISA International Workshop (ベルリン) 参加報告」 ・・・・日本エヌ・ユー・エス(株)環境管理ユニット上級コンサルタント 上田真久氏 3) 「(JOGMEC 委託調査結果報告の抜粋) 海底熱水鉱床開発に関する我が国企業の参入可能性アンケート調査結果の概要」 ・・・・海洋資源・産業ラウンドテーブル事務局長 中原裕幸  (終了後、懇親会を開催。参加者数：約 112 名)

年 月 日	内 容
2018年2月14日(水) (13:30~15:15) (於:霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館・霞山の間)	第18回海洋資源・産業ラウンドテーブル全体会合 内容:以下のとおり 1)「国際海底機構 (ISA) における探査規則、開発規則(案)やルールの策定状況」 …JOGMEC 金属資源技術部特命調査役、ISA 法律・技術委員会委員 岡本 信行氏  2)「海底熱水鉱床開発に向けた取り組み～採鉱・揚鉱パイロット試験を終えて～」 …JOGMEC 金属資源技術部海洋資源技術課長代理 山路 法宏氏  (終了後、懇親会を開催。参加者数:約125名)

## (2) 特別講演会

年 月 日	内 容
2017年7月19日(水) (15:00~18:00) (於:霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館・霞山の間)	「Bauer 社(ドイツ)特別講演会」  ドイツで当ラウンドテーブルに近い役割を果たし、同国の深海底資源開発を推進する産業団体である Deep Sea Mining Alliance (DSMA) との共催で実施  内容:以下のとおり。 ○話題提供 (15:05~) 逐次通訳付 1) Brief overview on the DSMA (DSMA 活動概要の紹介) Leonhard Weixler (Executive Director, BAUER Maschinen GmbH) 2) BAUER Maritime Technologies (BAUER 社 海洋技術の紹介) Leonhard Weixler (Executive Director, BAUER Maschinen GmbH)  ○質疑応答 (16:15~) 逐次通訳付 (終了後、Networking Buffet。参加者数:約30名)

## 3. 見学会等の実施

年 月 日	内 容
2017年11月21日(火)	第17回見学会 海洋資源調査船「白嶺」および三菱重工下関造船所見学会 場所:三菱重工下関造船所および下関港公共ふ頭 参加人数:10会員、15名

#### 4. 情報受発信事業の実施

##### (1) ホームページ/会員専用ページの更新

年 月 日	内 容
2017年7月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の理事会・総会・懇親会資料を公開</li> <li>平成29年度「今後の活動に関する会員アンケートの実施」を会員向けに公開</li> </ul>
2017年9月29日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年7月19日(水)に実施した「Bauer社(ドイツ)特別講演会」の様子を会員向けに公開</li> <li>※資料データは事務局に要望した会員のみに配布</li> </ul>
2017年12月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年11月21日(火)に実施した海洋資源調査船「白嶺」および三菱重工下関造船所見学会の様子を会員向けに公開</li> </ul>

##### (2) 「RTメールニュース」の配信

国内外の海底鉱物資源開発関連ニュースやラウンドテーブルの活動に関する情報等をまとめ、前年度は7号を配信したが、平成29年度は毎月1回のペースで、Vol.8からVol.19までの計12号、および9月26日に揚降試験成功の号外を、会員および関係者に配信。また、Vol.9より《一般情報》と《ラウンドテーブル関係情報》との区分を設けた。

年 月 日	主 な 記 事
2017年4月21日(金) Vol.8	<ol style="list-style-type: none"> <li>国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況</li> <li>Nautilus Minerals 社の活動状況</li> <li>経済産業省、第2回メタンハイドレート海洋産出試験に着手</li> <li>総合海洋政策本部参与会議、意見書を大臣へ手交</li> <li>JAMSTEC、三陸沖での「新青丸」による海底観察等の速報を公表</li> </ol>
2017年5月23日(火) Vol.9	<p>《一般情報》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第2回メタハイ海洋産出試験を一時中断後、別の坑井で再開予定</li> <li>JAMSTEC、深海熱水噴出孔周辺における自然発生的な発電現象を実証</li> <li>ISA/JOGMEC、2018年の海洋開発訓練プログラムへの参加者を公募</li> <li>中国の海底資源開発の動向</li> <li>Nautilus Minerals 社、海底機材昇降システムを中国に納入</li> </ol> <p>《ラウンドテーブル関係情報》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7月7日(金)、平成29年度理事会・総会・全体会合開催のお知らせ</li> <li>7月19日(水)、「Bauer社(ドイツ)社長特別講演会」開催のお知らせ</li> </ol>
2017年6月21日(水) Vol.10	<p>《一般情報》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>東京大学大気海洋研究所の山崎教授がCLCS委員に当選</li> <li>メタハイ海洋産出試験、2本目の生産坑井でガス生産を確認</li> <li>三井造船、表層型メタハイ採掘技術確立に向けて独 MHWirth 社と協業開始</li> <li>国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況</li> <li>房総沖の海山斜面にコバルトリッチクラストの広がりを確認</li> </ol> <p>《ラウンドテーブル関係情報》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7月7日(金)、平成29年度理事会・総会開催のお知らせ</li> <li>7月7日(金)、全体会合、懇親会開催のお知らせ</li> <li>7月19日(水)、「Bauer社(ドイツ)特別講演会」開催のお知らせ</li> </ol>

年 月 日	主 な 記 事
2017年7月25日(火) Vol. 11	《一般情報》 1. JOGMEC、7月21日に新たな海底熱水鉱床の存在の確認を公表 2. メタンハイドレート、第2回産出試験終了 3. 総合資源エネルギー調査会 資源・燃料分科会、砂層型メタハイドレートマップ案を公表 4. 新潟県、表層型メタンハイドレート活用へ構想を作成 5. 国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況 6. Nautilus Minerals 社、年次株主総会を開催 7. JAMSTEC、「しんかい6500」改修工事で操作性向上 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 7月7日、平成29年度理事会・総会・全体会合・懇親会を開催 2. 7月19日、「Bauer社(ドイツ)特別講演会」を開催 3. 平成29年度会費請求書発送のお知らせ 4. 平成29年度会員アンケートへのご協力のお願い
2017年8月22日(火) Vol. 12	《一般情報》 1. 国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況 ○第23回年次総会、理事会、及び法律・技術委員会を開催 ○ロシア天然資源・環境省による訓練プログラムの公募開始 2. 和歌山県、H29年度メタンハイドレート賦存状況調査を実施 3. 「ちきゅう」船上における海洋プレート掘削岩石コアの記載・解析を開始 4. 南アフリカ、De Beers社の海底ダイヤモンド掘削船が始動 5. Nautilus Minerals 社、200万ドルの私募債を発行 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 平成29年度会費請求書発送のお知らせ(再度ご案内) 2. 平成29年度会員アンケートへのご協力のお願い(再度ご案内)
2017年9月25日(月) Vol. 13	《一般情報》 1. 国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況 ○深海底における鉱物資源開発規則の草案を公開、意見を受け付け中 ○ドイツBGRによる訓練プログラムの公募開始 ○IRZ (環境影響評価対照区) 等の設計ワークショップを9月にドイツで開催 2. インド、中央インド洋におけるマンガン団塊の探索権を5年延長 3. Nautilus Minerals 社、第2四半期の決算公表 4. JAMSTEC、水深8,178mにおいて魚類の撮影に成功 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 平成29年度会費請求書発送のお知らせ (再度ご案内)
2017年9月26日(火) 号外	JOGMEC 海底熱水鉱床の連続揚鉱試験に成功
2017年10月27日(金) Vol. 14	《一般情報》 1. 国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況 ○ISA、韓国からLee氏が常任委員に着任 ○IRZ (環境影響評価対照区) 等の設計ワークショップを9月にドイツで開催 2. 中国の海洋調査船が東太平洋でマンガン団塊の調査を開始 3. Nautilus Minerals 社、2017年末までに41百万米ドルの追加資金が必要と発表

年 月 日	主 な 記 事
	4. 環境影響観測の指標種として期待される新種のスポンジが発見される 5. METI、平成 30 年度概算要求で探査船整備 60 億円、海洋鉱物資源評価 88 億円等を計上 6. JAMSTEC、IODP に基づき、ハワイ諸島当方沖で地殻構造調査を実施 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 11 月 21 日 (火)、JOGMEC 探査船「白嶺」見学会開催のご案内 2. 10 月 18 日 (水)、第 2 回幹事会を開催 3. 会員アンケートを常時受け付け
2017 年 11 月 24 日 (金) Vol. 15	《一般情報》 1. 国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況 ○ISA 代表団がポーランドを訪問 ○在ジャマイカ大使館特命全権大使の山崎啓正氏が ISA 常任理事に着任 2. Nautilus Minerals 社の活動状況 ○Solwara 1 プロジェクトに向けた機材の建造が順調に進捗 ○取締役の交代を発表 ○プロジェクト維持に早期の資金調達が必要と再度発表 ○NGO 団体の反応 3. JAMSTEC 他、水中光無線通信による 100m 超の高速双方向通信に成功 4. ロッキード・マーチン社、米海軍 XLUUV の設計を受注 5. Teledyne Gavia 社、6000m 級の AUV 製造を受注 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 11 月 21 日 (火)、JOGMEC 「白嶺」見学会を開催 2. 会員アンケートのご案内
2017 年 12 月 27 日 (金) Vol. 16	《一般情報》 1. 総合海洋政策本部参与会議、第 3 期海洋基本計画策定に向けた意見書を手交 2. 国際海底機構 (ISA: International Seabed Authority) の活動状況 ○ロッキード事務局長、米国科学アカデミーで ISA の活動内容について講演 ○ISA、仏・IFREMER とのマンガン団塊の探査に関する契約期間を延長 ○ベルギー GSR 社、深海底鉱物資源開発訓練プログラム受講希望者の公募開始 3. Nautilus Minerals 社の活動状況 ○2017 年第 3 四半期の決算を発表 ○海底生産システム機材の建造にかかる資金調達について協議 ○生産支援船の建造にかかる支払いが滞納 4. 米国 OML 社、クック諸島 EEZ におけるマンガン団塊の独占探査権を取得 5. 英国 OXIS Energy 社、6,000m 級 AUV、UUV 向けの深海用バッテリーを開発 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 平成 30 年 2 月 14 日 (水)、第 18 回全体会合および交流会を開催 (予告) 2. 会員アンケートのご案内
2018 年 1 月 26 日 (金) Vol. 17	《一般情報》 1. 国際海底機構 (ISA) の活動状況 ○韓国、フランス、中国等が深海底資源開発研修プログラムの研修生を募集 ○深海底鉱物資源開発規則の草案に寄せられた意見書の一覧を公開 2. Nautilus Minerals 社の活動状況 ○つなぎ融資によりプロジェクトの運転資金の一部を調達 ○新会長に Al Barwani 氏を任命 ○パプアニューギニア開発担当 VP が辞任

年 月 日	主 な 記 事
	3. 12/18、SIP 次世代海洋資源調査技術シンポジウム開催 4. 川崎重工が英国海域における AUV 実証試験に成功 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 2月14日(水)、第18回全体会合および交流会開催のご案内 2. 平成30年度総会・理事会開催の開催日のご案内 3. 会員アンケートのご案内
2018年2月26日(月) Vol. 18	《一般情報》 1. ISA 事務局長、ロンドンWSで深海底鉱物資源の開発規則等について講演 2. Nautilus Minerals 社の活動状況 ○PNG 政府から新たな鉱区の探査権を取得 ○生産機器3機の動作試験が成功裡に終了 ○中国で建造中の作業支援船、完成までの進捗率は75%超 3. 2月1日(木)、第38回総合海洋政策本部参与会議開催 4. 2月2日(金)、第2回「海洋資源開発技術プラットフォーム会合」開催 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 2月14日(水)、第18回全体会合および交流会開催は盛況裡に開催 2. 平成30年度理事会・総会開催日のご案内(再掲) 3. 会員アンケートのご案内
2018年3月29日(木) Vol. 19	《一般情報》 1. 国際海底機構(ISA: International Seabed Authority)の活動状況 ○2019年以降5年間の活動戦略計画の草案を発表 ○法律・技術委員会委員長にジャマイカのMichelle Walker氏選出 2. Nautilus Minerals 社の活動状況 ○新COOにWayne Knott氏を任命 ○Solwara 1 Projectの予備的経済性評価を発表 ○追加つなぎ融資1.9百万米ドルを受領 ○2017年の連結決算を発表 3. 日本財団、2030年までに地球の海底地形図100%完成を目指す 4. 国際深海科学掘削計画(IODP)第375次研究航海の開始 《ラウンドテーブル関係情報》 1. 平成30年度理事会・総会開催日のご案内(再掲) 2. 会員アンケートのご案内

## 5. 海洋資源の開発および関連産業の振興に関する調査・研究等

### (1) 報告書等の刊行

年 月 日	内 容
2017年6月	国際海底機構 (ISA) の規則 (英和対訳・仮訳、3分冊) の冊子 第2版の刊行 《会員限定配布》 ・『深海底における多金属硫化物の概要調査及び探査に関する規則-海底熱水鉱床-』(A5判) ・『深海底における多金属性団塊の概要調査及び探査に関する規則-マンガン団塊-』(A5判) ・『深海底におけるコバルトリッチ鉄-マンガンクラストの概要調査及び探査に関する規則の草案-コバルトリッチクラスト-』(A5判)

年 月 日	内 容
2017年7月	「ラウンドテーブルレポート No. 3」の刊行 ≪会員限定配布≫ 「国際会議に見る深海底鉱物資源開発の動向 UMC(Underwater Mining Conference)2016(韓国)、 DSMS(Deep Sea Mining Summit)2016(シンガポール)、 OTC(Offshore Technology Conference)2016(米国)」の刊行
2018年5月 (予定)	「ラウンドテーブルレポート No. 4」の刊行 ≪会員限定配布≫ 「国際会議に見る深海底鉱物資源開発の動向(Ⅱ) DSMS(Deep Sea Mining Summit)2017(シンガポール)」の刊行

## (2) 調査委託事業

年 月 日	内 容
2017年10月～ 2018年1月	「海外における深海底鉱物資源の研究動向のとりまとめ業務」の調査委託を実施  Asia Pacific Deep Sea Mining Conference シンガポール大会を視察し、同学会で報告された海底鉱物資源の開発にかかわる技術及び環境影響評価についてとりまとめた。 (委託先：システム工学研究所株式会社) (「ラウンドテーブルレポート No. 4」として2018年5月に刊行予定)

## 6. その他

年 月 日	内 容
2017年7月25日(火)	平成29年度「今後の活動に関する会員アンケート」の実施 配布：郵送・会員専用Webサイトでの公開 回収：e-mail、Fax等 内容：以下のとおり ・第17回全体会合のご感想 ・今後の活動について ・今後の見学先について ・調査・研究活動のトピックについて ・その他

## 7. 決算等

平成29年度予算編成時には、事業活動の一層の拡充を図ることとして調査費を拡充して編成したが、結果としては、第18回全体会合がJOGMECからの多大なるご支援・ご協力により所要経費が大幅に節約されたほか、年度内に企画していたノルウェーとの意見交

換会が次年度に持ち越されたりしたことなどもあって、支出は予算額を下回る結果となった。一方、印刷費に関しては、今年度はラウンドテーブルレポートを2冊、ISAが定める探査規則の第2版を刊行する等、例年よりも情報発信に力を入れたため、予算の倍近くの支出となった。結果的には、全体で見ると若干余裕を残す収支となった。

なお、平成30年度の予算案の編成については、事業活動の一層の充実に努めることとし、海外への調査団派遣や国際資源開発研修センターとの研修事業の開催等、平成29年度より支出を増やし、年間収支の不足分は十分な余裕がある繰越金を充当することとする。

## Ⅱ. 決算報告

### 1. 平成 29 年度収支計算書（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）

(単位：円)

目	当初予算額	決算額	差異	備考
収入の部				
1 会費収入	11,000,000	10,695,000	305,000	※
(1) 会費	11,000,000	10,695,000	305,000	
(2) 特別会費	0	0	0	
2 事業収入	0	0	0	
(1) 事業収入	0	0	0	
3 雑収入	31,000	35,194	△ 4,194	
(1) 受取利息	1,000	194	806	
(2) 雑収入	30,000	35,000	△ 5,000	主催行事参加費等
当期収入合計 (A)	11,031,000	10,730,194	300,806	
支出の部				
1 会議費	3,300,000	2,641,138	658,862	事務費用大幅減
2 調査研究費	5,500,000	2,371,128	3,128,872	
3 印刷費	1,000,000	1,893,493	△ 893,493	
4 通信費	100,000	145,492	△ 45,492	
5 事務局業務費	3,000,000	3,000,000	0	
6 雑費	50,000	22,693	27,307	
当期支出合計 (B)	12,950,000	10,073,944	2,876,056	
当期収支差額 (C)=(A)-(B)	△ 1,919,000	656,250	△ 2,575,250	
前期繰越収支差額 (D)	17,789,472	17,789,472	0	
次期繰越収支差額(E)=(C)+(D)	15,870,472	18,445,722	△ 2,575,250	

※	年会費	口数
正会員	200,000	44
団体会員	200,000	7
独法・国研会員	100,000	4
個人会員	5,000	19

## 参考

### 1. 平成 28 年度収支計算書（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）

（単位：円）

科 目	当初予算額	決 算 額	差 異	備 考
収入の部				
1 会費収入	11,000,000	10,600,000	400,000	正会員・団体会員 20万円 x 51口
(1) 会費	11,000,000	10,600,000	400,000	独法・国研10万 円 x 4口
(2) 特別会費	0	0	0	
2 事業収入	0	0	0	
(1) 事業収入	0	0	0	
3 雑収入	32,000	198	31,802	
(1) 受取利息	2,000	198	1,802	
(2) 雑収入	30,000	0	30,000	主催行事参加費等
当期収入合計（A）	11,032,000	10,600,198	431,802	
支出の部				
1 会議費	3,500,000	3,754,030	△ 254,030	
2 調査研究費	4,500,000	2,819,543	1,680,457	調査委託費、見 学会費用等
3 印刷費	800,000	806,099	△ 6,099	
4 通信費	100,000	75,163	24,837	
5 事務局業務費	3,000,000	3,000,000	0	
6 雑費	50,000	15,656	34,344	
当期支出合計（B）	11,950,000	10,470,491	1,479,509	
当期収支差額 (C)=(A)-(B)	△ 918,000	129,707	△ 1,047,707	
前期繰越収支差額（D）	17,659,765	17,659,765	0	
次期繰越収支差額(E)=(C)+(D)	16,741,765	17,789,472	△ 1,047,707	

2. 貸借対照表（平成30年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現 金 預 金	19,519,782	22,437,969	△ 2,918,187
未 収 金	0	0	0
流 動 資 産 合 計	19,519,782	22,437,969	△ 2,918,187
2. 固 定 資 産			
(1)特定資産			
特 定 資 産 合 計	0	0	0
(2)その他固定資産			
そ の 他 固 定 資 産 合 計	0	0	0
固 定 資 産 合 計	0	0	0
資 産 合 計	19,519,782	22,437,969	△ 2,918,187
II. 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未 払 金	1,074,060	4,648,497	△ 3,574,437
そ の 他	0	0	0
流 動 負 債 合 計	1,074,060	4,648,497	△ 3,574,437
2. 固 定 負 債			
固 定 負 債 合 計	0	0	0
負 債 合 計	1,074,060	4,648,497	△ 3,574,437
III. 正 味 財 産 の 部			
1. 指 定 正 味 財 産	0	0	0
2. 一 般 正 味 財 産	18,445,722	17,789,472	656,250
正 味 財 産 合 計	18,445,722	17,789,472	656,250
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	19,519,782	22,437,969	△ 2,918,187

3. 正味財産増減計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会 費	10,695,000	10,600,000	95,000
特 別 会 費	0	0	0
事 業 収 入	0	0	0
雑 収 入	35,194	198	34,996
経 常 収 益 計	10,730,194	10,600,198	129,996
(2) 経常費用			
事 業 費	10,073,944	10,470,491	△ 396,547
会議費支出	2,641,138	3,754,030	△ 1,112,892
調査研究費支出	2,371,128	2,819,543	△ 448,415
印刷費支出	1,893,493	806,099	1,087,394
通信費支出	145,492	75,163	70,329
事務局業務費支出	3,000,000	3,000,000	0
雑費支出	22,693	15,656	7,037
経 常 費 用 計	10,073,944	10,470,491	△ 396,547
当 期 経 常 増 減 額	656,250	129,707	526,543
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	656,250	129,707	526,543
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	17,789,472	17,659,765	129,707
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	18,445,722	17,789,472	656,250
II. 正味財産期末残高	18,445,722	17,789,472	656,250



## 監 査 報 告 書

海洋資源・産業ラウンドテーブル  
会 長 佃 和 夫 殿

平成 29 年度の事業報告および決算報告について監査したところ、いずれも適正かつ妥当であることを確認しました。

平成 30 年 5 月 23 日

海洋資源・産業ラウンドテーブル

監事

田 畑 日 出 男 

監事

中 田 喜 三 郎 



海洋資源・産業ラウンドテーブル  
平成30年度第1回通常理事会／通常総会

議案2号：平成30年度事業計画および収支予算案の承認に関する件

I. 平成30年度事業計画（案）

本年度の活動については、引き続き、設立の趣旨である「幅広い視点からの知見にもとづく多角的な検討に基づいた取り組み」を行うことを基本とし、海洋産業界と鉱業界ならびに周辺業界との間の交流を一層深める。

昨年度は、海底熱水鉱床の揚鉱パイロット試験が成功する等、深海底鉱物資源の利活用の促進に向けての取り組みが着実に進んでいるところであるが、今年度は、第3期海洋基本計画が5月14日に閣議決定されたのに伴い、海洋エネルギー・資源開発計画の改定が想定されている。

そこで、当RTとしては、これらの国の動きについて会員の情報共有を図るとともに、全体会合や特別研究会、見学会等の活動を通じて、国外の技術動向に関する情報収集の強化等、一層の事業活動の充実を図り、技術開発の発展に資する有益な交流の場の提供に努める。また、今年度より人材育成の支援についても取り組む。

なお、翌年度は当ラウンドテーブル設立10周年を迎えることから、記念事業の準備にも着手する。

1. 会議の開催

平成30年度内に、総会を1回、理事会を1回以上、幹事会を必要に応じた回数、開催する。

2. 全体会合等の開催

平成30年度内に全体会合を複数回開催する。その他、適宜、特別講演会等を開催し、海底鉱物資源開発を牽引する国内外の団体等について学び、交流する機会を設ける。

○全体会合については、時宜を得たテーマ等を選定して実施する。

○特別研究会等

期初に予定しているものとしては、OCEANS/Technio-Ocean2018に合わせて次の行事を予定しているが、そのほか、年度内に適宜開催する。

「ノルウェー／日本 海洋資源開発技術に関する意見交換会」

・ 日時：平成30年5月28日（月）13時15分～16時45分

・ 場所：神戸コンベンションセンター 国際会議場501号室

・ 参加者：ノルウェー：ノルウェー科学技術大学（NTNU）、DNV、Statoil、Kongeborg  
同国大使館等から10名程度

日本：RT関係者を中心に15名程度 計25名程度

3. 人材育成・研修事業の実施

今年度は新たに、深海底鉱物資源の利活用促進に資する人材を育成することを目的に、一般財団法人国際資源開発研修センター（JMEC）との共催により、下記要領にて

「海底鉱物資源開発基礎講座」を開催する。

- ・ 座学 平成 30 年 6 月 7 日（木）、8 日（金）、11 日（月）  
JMEC 会議室（東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル 4 階）
- ・ 見学 6 月 12 日（火）東邦亜鉛（株）小名浜製錬所（福島県）  
6 月 13 日（水）海洋資源調査船白嶺（千葉県）

#### 4. 見学会等の実施

平成 30 年度に、海底鉱物資源の開発の参考になると考えられる、船舶、研究施設・設備、鉱山関係等を対象に、例年同様、数回の見学会を実施する。

#### 5. 情報受発信事業の実施

会員限定の情報・資料の提供・共有、さらに外部機関の関連情報の収集、および会員内外への情報発信等の充実・強化に取り組む。

- ・ 活動内容の記録や調査研究成果等の報告書、有用資料等の発行・配布
- ・ 会員保有技術の情報共有・提供
- ・ ホームページ/会員専用ページの更新・充実
- ・ 「RT メールニュース」の配信（年度内 12 回程度）
- ・ その他、関連する情報受発信活動

#### 6. 海洋資源の開発および関連産業の振興に関する調査・研究等の実施

多角的な立場・視点から情報及び意見交換、さらに必要な調査・研究活動を精力的に行い、一層の充実を図る。

- ・ 海外における海底鉱物資源開発に関連する法整備、各種技術動向、環境保全対策等の把握
- ・ 海外における海底鉱物資源関連の学会、国際会議等への調査団派遣、情報収集。  
下記の例のほか、適宜、調査員等の派遣による情報収集を行う。

例：UMC-2018：47th Underwater Mining Conference

（ノルウェー・ベルゲンにて 9 月 10～14 日開催）

Asia-Pacific Deep Sea Mining Summit

（シンガポールにて 11 月 28～29 日開催）

- ・ 国際機関等による有用資料やその他資料の翻訳・編集・出版・配布  
例：ISA が現在策定している「深海底における鉱物資源の開発に関する規制の草案」“Draft regulations on exploitation of mineral resources in the Area”の翻訳
- ・ その他、会員の意向に基づく有用情報のとりまとめ

#### 7. 10 周年記念事業の着手

次年度に海洋資源・産業ラウンドテーブル設立 10 周年を迎えるにあたり、記念事業の準備に着手する。

（記念事業の例）

- ・ 10 周年記念式典の企画・準備（平成 31 年度 7 月の理事・総会・全体会合後の懇親会を記念パーティとして開催など）
- ・ 「海洋資源・産業ラウンドテーブル 10 年史」の企画・編集（沿革、活動実績等々

を収録して、会員内外に配布)

8. その他、会の目的を達成するために必要な事業の実施

その他本会の趣旨に沿って、その他の事業活動に取り組む。

- ・ 事業活動に関する会員の意向調査（アンケート）の実施（10周年記念事業、新規事業展開含む）
- ・ 事業活動の拡大に伴う調査研究委託事業等の拡大

## II. 平成30年度収支予算案

平成30年度収支予算案（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	平成30年度 予算	平成29年度		備 考
		予算額	決算額	
収入の部				
1 会費収入	10,550,000	11,000,000	10,695,000	
(1)会費	10,550,000	11,000,000	10,695,000	正・団体会員:20万円×50口, 独法会員:10万円×4口, 個人会員:5千円×30口
(2)特別会費	0	0	0	
2 事業収入	0	0	0	
(1)事業収入	0	0	0	
3 雑収入	36,000	31,000	35,194	
(1)受取利息	1,000	1,000	194	
(2)雑収入	35,000	30,000	35,000	主催行事参加費収入等
当期収入計(A)	10,586,000	11,031,000	10,730,194	
支出の部				
1 会議費	3,000,000	3,300,000	2,641,138	会場借用料等
2 調査研究費	4,500,000	5,500,000	2,371,128	謝金、作業費、委託費、見学会費、臨時 用役費、10周年記念事業等新規事業着 手費、人材育成研修費等
3 印刷費	1,500,000	1,000,000	1,893,493	小冊子、調査報告書等
4 通信費	150,000	100,000	145,492	
5 事務局業務費	3,500,000	3,000,000	3,000,000	
6 雑費	50,000	50,000	22,693	
当期支出計(B)	12,700,000	12,950,000	10,073,944	
当期収支差額 (C)=(A)-(B)	△ 2,114,000	△ 1,919,000	656,250	
前期繰越収支差額(D)	18,445,722	17,789,472	17,789,472	
次期繰越収支差額 (E)=(C)+(D)	16,331,722	15,870,472	18,445,722	

### 議案3号：役員を選任（承認）に関する件

平成30年度は、会則の定めにより、理事改選期あたるため、総会において選任・承認する次期役員候補者を次の通りとする。

(順不同・敬称略)

#### 1. 理事 15名

佃 和 夫	(一社)海洋産業研究会会長
山 内 隆 司	経団連海洋開発推進委員会委員長
関 口 明 *	日本鉱業協会会長
細 野 哲 弘 *	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事長
青 山 伸 昭	新日鉄住金エンジニアリング(株)顧問
浦 辺 徹 郎	(一財)国際資源開発研修センター顧問
柏 木 正	(公社)日本船舶海洋工学会会長
古 賀 衛	西南学院大学法学部教授
清 水 琢 三	(一社)日本埋立浚渫協会会長
平 朝 彦	(国研)海洋研究開発機構理事長
武 澤 恭 司 *	(一社)日本建設業連合会海洋開発委員会委員長
長 澤 仁 志	日本郵船(株)代表取締役・副社長経営委員
橋 本 安 司 *	深海資源開発(株)取締役社長
深 澤 光 *	石油鉱業連盟大陸棚委員会委員長
山 富 二 郎	東京大学名誉教授

#### 2. 監事 2名

田 畑 日出男	いであ(株)代表取締役会長
中 田 喜三郎	名城大学大学院総合学術研究科特任教授

\* は平成30年度新任

以上



議案4号：新規入会会員の承認に関する件

以下の新規入会申込みを、承認する。

〔団体会員〕

(順不同)

一般社団法人 海洋調査協会

・・・1会員

〔個人会員〕

(順不同・敬称略)

神 門 正 雄

・・・1会員

以上

## 一般社団法人 海洋調査協会

・会長 川嶋 康宏

・所在地

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町2丁目8番6号日本橋ビル3階

TEL (03)-5640-0373

・事業内容

海洋調査業界の健全な発展のため、海洋調査事業の近代化、海洋調査事業に従事する技術者の技術水準の向上、海洋調査事業の労働災害防止等の事業をはじめ幅広い活動を行っている。

・設立 1985年(昭和60年4月)

・会員数(平成29年6月1日現在)

正会員 81社

賛助会員 43社

「海洋資源・産業ラウンドテーブル」

平成30年度  
第2回通常理事会

< 次 第 >

1. 開 会
2. 議事録署名人の選任
3. 議 事  
(1) 議案1号：会長・副会長の互選に関する件
4. 閉 会

=====  
〔第2回理事会配布資料〕

議案1号：会長・副会長の互選に関する件



議案1号：会長・副会長の互選に関する件

理事の互選により、正副会長に次の方々を選任する。

(順不同・敬称略)

会 長            佃      和 夫      (一社)海洋産業研究会会長

副会長※        山 内 隆 司      経団連海洋開発推進委員会委員長

副会長           関 口      明            日本鉱業協会会長

副会長           細 野 哲 弘      (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事長

(※ 会長代行)

以上

平成30年7月6日現在

海洋資源・産業ラウンドテーブル  
役員名簿

[順不同]

会長	佃 和 夫	(一社)海洋産業研究会会長
副会長(会長代行)	山 内 隆 司	経団連海洋開発推進委員会委員長
副会長	関 口 明	日本鉱業協会会長
副会長	細 野 哲 弘	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事長
理事	青 山 伸 昭	新日鉄住金エンジニアリング(株)顧問
理事	浦 辺 徹 郎	(一財)国際資源開発研修センター顧問
理事	柏 木 正	(公社)日本船舶海洋工学会会長
理事	古 賀 衛	西南学院大学法学部教授
理事	清 水 琢 三	(一社)日本埋立浚渫協会会長
理事	平 朝 彦	(国研)海洋研究開発機構理事長
理事	武 澤 恭 司	(一社)日本建設業連合会海洋開発委員会委員長
理事	長 澤 仁 志	日本郵船(株)代表取締役・副社長経営委員
理事	橋 本 安 司	深海資源開発(株)取締役社長
理事	深 澤 光	石油鉱業連盟大陸棚委員会委員長
理事	山 富 二 郎	東京大学名誉教授
監事	田 畑 日出男	いであ(株)代表取締役会長
監事	中 田 喜三郎	名城大学大学院総合学術研究科特任教授

幹事名簿

[順不同]

栗 島 裕 治	ジャパン マリンユナイテッド(株)海洋・エンジニアリング事業本部 海洋・エンジニアリングプロジェクト部 部長
加 藤 元 彦	日本鉱業協会副会長(兼)専務理事
金 澤 一 郎	新日鉄住金エンジニアリング(株)執行役員 海洋事業部長
亀 澤 靖	大成建設(株)環境本部執行役員本部長
木 川 栄 一	(国研)海洋研究開発機構海底資源研究開発センター長
小 松 正 夫	三菱造船(株) マリンエンジニアリングセンター 開発部 主幹技師 海洋開発担当部長
塩 川 智	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構金属資源技術部 担当審議役
田 中 壮一郎	深海資源開発(株)探査推進本部副本部長 海洋調査部長
戸 田 和 彦	(一社)日本建設業連合会常務執行役
中 尾 慎 一	三井E&S造船(株)企画管理本部 事業開発部長
中 原 裕 幸*	(一社)海洋産業研究会常務理事
福 田 功	(一社)日本埋立浚渫協会専務理事

[\* 事務局長]

## 海洋資源・産業ラウンドテーブル 会員状況

【正会員】		41会員	〔順不同〕
いであ株式会社	東京製綱繊維ロープ株式会社		
株式会社エヌ・ティ・ティ・データCCS	東洋建設株式会社		
株式会社大林組	DOWAメタルマイン株式会社		
海洋エンジニアリング株式会社	日揮株式会社		
海洋技術開発株式会社	日鉄鉱業株式会社		
川崎地質株式会社	日本郵船株式会社		
株式会社環境総合テクノス	日本エヌ・ユー・エス株式会社		
クニミネ工業株式会社	日本海工株式会社		
鉱研工業株式会社	日本海洋事業株式会社		
国際航業株式会社	株式会社日本海洋生物研究所		
五洋建設株式会社	深田サルベージ建設株式会社		
JX金属株式会社	古河機械金属株式会社		
ジャパン マリンユナイテッド株式会社	株式会社マリン・ワーク・ジャパン		
深海資源開発株式会社	三井E&S造船株式会社		
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	三井金属鉱業株式会社		
住友金属鉱山株式会社	株式会社三井三池製作所		
石油資源開発株式会社	三菱重工業株式会社		
大成建設株式会社	三菱マテリアル株式会社		
株式会社地球科学総合研究所	みらい建設工業株式会社		
株式会社鶴見精機	株式会社吉田組		
東亜建設工業株式会社			
【団体会員】		7団体	〔順不同〕
一般社団法人海洋産業研究会	一般社団法人日本建設業連合会		
一般社団法人海洋調査協会 *	日本鉱業協会		
石油鉱業連盟	一般社団法人日本作業船協会		
一般社団法人日本埋立浚渫協会			
【独立行政法人会員】		4団体	〔順不同〕
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所			
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所			
国立研究開発法人海洋研究開発機構			
独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構			
【個人会員】		24人	〔順不同・敬称略〕
青木 望 美	佐古田 彰	中山 健	
臼井 朗	柴田 由紀枝	葉室 和親	
浦辺 徹郎	角 洋一	細井 義孝	
加々美 康彦	瀬田 真	村山 雅史	
掛江 朋子	高橋 重雄	山崎 哲生	
神門 正雄 *	徳山 英一	山富 二郎	
古賀 衛	中田 喜三郎	渡邊 啓介	
齋藤 章	中田 達也	渡辺 喜保	

\*は新規会員